

〔課題演習抄録〕

中学校音楽科における学びのユニバーサルデザインを活用した授業づくり

荒 木 千 尋

Chihiro ARAKI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：学びのユニバーサルデザイン，合唱，音楽科

1 研究の目的

中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説音楽編では、これまでの音楽的な感性の育成を中心とした教育に加えて、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽の価値について考えたりすることによって、より一層、子ども達が音楽に親しむ態度を育んでいくことを重視している。そのため、これからの音楽科の授業では、生徒一人一人が音楽に向き合って自分の考えをもち、他者と語り合える場をつくっていかなければならない。

一方で、音楽活動では、技能の差や音楽に関する生活経験の差が出てしまう場合がある。また、学習を進めていく上で困り感をもっている生徒が見受けられることがある。

そこで、「学びのユニバーサルデザイン」の視点を中学校音楽科の授業に取り入れる。

具体的には、「学びのユニバーサルデザイン」の視点を音楽科の授業に取り入れることにより、学ぶことへの障壁を緩和し、すべての生徒が「わかる」「できる」授業を実現させることができるのかを検証する。

2 研究の計画

時期	研究内容
M2前期	・授業実践A 中学校 第1学年 合唱『青春の1ページ』 ・授業分析
M2後期	・授業実践A 中学校 第1学年 合唱『未来へのステップ』 ・授業分析

3 研究の内容

(1) 先行研究

佐藤(2010)は、ユニバーサルデザインの定義を「LD等の子どもには“ないと困る”支援であり、どの子どもにも“あると便利”な支援を増やすこと」としている。そして「ユニバーサルデザインとは、『個に応じた指導』の充実・発展型であり、どの子どもも学びやすい包括性の高い支援条件の提供ともいえよう。」と述べている。

また、花熊(2018)は、ユニバーサルデザインの授業づくりについて、特別支援教育の専門性だけでは不十分であり、教科教育の視点(専門性)とのコラボレーションが必要であると示唆している。

そこで、本研究では、特別支援教育と教科教育の2つの側面の実践的研究である、福岡県教育センター調査研究(2014)を参考にする。そこでは、「通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」として、「シンプル・クリア・ビジュアル・シェア」の4つの視点から授業づくりについて整理している。

(2) 授業実践 I

(i) 授業の詳細

題 材	合唱曲 金沢智恵子 作詞・橋本祥路 作曲 『青春の1ページ』
実施日	2019年6月26日
対 象	宗像市立A中学校 第1学年
主 眼	自分のパートの旋律をつかみ、他パートと合わせて歌うことができる。

(ii) 本授業で取り入れたユニバーサルデザイン

シンプル 本時のねらいや発問をしぼる。

・前回の課題を振り返り、めあての確認を行う。

クリア 授業展開の道筋を明確にする。

・授業の最初に本時の流れを確認する。

ビジュアル 視覚情報や具体物を併用する。

・本時の流れを黒板に書く。

・「前回の振り返り」と「本時の振り返り」を視覚的に確認できるようにする。

・パートの旋律を五線譜に示して確認する。

シエア 少人数で話し合う場面を設定し、発言機会を確保する。

- ・少人数でのCDを使った練習、本時の振り返りを各パートで行わせる。

(iii) 学習記録カードの記述の分析

生徒の記述内容を①②③に分類し、整理した。

表 1 記述内容の整理 (単位: 人)

	第1次	第2次(変化)
①できるようになったこと	15	-2
②課題となったこと	5	-2
③課題をクリアするために	2	+3
①・②	7	-3
①・③	0	+1
②・③	4	-1
①・②・③	2	+3
未記入	0	+1
欠席	1	0

(iv) 授業実践の考察

「できたこと」と「課題」を視覚的に示すことによって、生徒たちは目的意識をもって練習することができた。また、学習記録カードの記述においても、具体的に「できるようになったこと」や「次時への課題」を自発的に考えていることがうかがえる。しかし、視覚的な手立てのみでは十分でない生徒もいるため、活動の時間を十分に確保したり、映像資料を用いて客観的に自身の活動を捉えさせたりする等の手立てが必要である。

(3) 授業実践Ⅱ

(i) 授業の詳細

題 材	合唱曲 松井孝夫 作詞・作曲 『未来へのステップ』
実施日	2019年11月20日
対 象	宗像市立A中学校 第1学年
主 眼	作者が曲に込めた想いを楽譜から読み取り、それを表現の工夫にいかすことができる。

(ii) 本授業で取り入れたユニバーサルデザイン

シンプル 本時のねらいや発問をしぼる。

- ・映像を確認させ、本時の課題を明確にする。

ビジュアル 視覚情報や具体物を併用する。

- ・演奏の様子を撮影し、音や表情を確認できるようにする。
- ・楽譜内で必要な情報だけを抜き出して視覚化する。
- ・黒板と学習プリントの構造を統一する。

シエア 少人数で話し合う場面を設定し、発言機会を確保する。

- ・少人数で話し合う場を設定する。(2～3人)

(iii) 学習プリントの記述(一部省略あり)

「作者はなぜ〇〇の部分の強弱記号をあえてmpからmfへのクレッシェンドにしたのだろうか。」という問いに対する生徒の記述は以下のとお

りである。

- ・「Step up」のところを強くしたいから(盛り上げたいから)mp→mfにしたと思う。
- ・だんだん大きくすることで、聴く人をドキッとさせようとしたのではないかな。
- ・冒険のような歌詞だから前向きな気持ちを表している。
- ・少しの不安な気持ちも表しているのではないかな。

(iv) 授業実践の考察

情報量の多い五線譜から「歌詞」と「強弱」という2つの情報を抜き出すことによって生徒全員が、作者が強弱記号に込めた思いについての記述を行うことが出来た。

4 成果と課題

成果として、「ビジュアル」の視点を取り入れることで、生徒達の学習への理解が深まることが分かった。また、その際の注意点として、学習するにあたって本当に必要な視覚的情報は何であるのかを、教師側が精選した上で生徒に提示することによって、より理解を促進する効果があると考えられる。特に、情報量の多い五線譜の読み取りに関しては、必要な情報を抜き出して提示するなどの工夫が必要である。

課題として、「シンプル」「クリア」「シエア」の視点における効果を明らかにすることはできなかった。今後の見通しとして、「シンプル」の視点では、授業の中心となる主発問を生徒の実態に合わせたものにすること。また、「クリア」の視点では、本時の流れを授業の最初に示し、それを習慣づけること。そして、「シエア」の視点では、グループ活動の際の適切な人数や、意見交流する際の方法を工夫すること。以上のことを踏まえ、今後も実践的な研究を積み上げていきたい。

主な引用・参考文献

- 福岡県教育センターホームページ 通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり (最終閲覧日: 2019年9月23日)
www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default/Aspx?c_id=446
- 花熊暁 2018 ユニバーサルデザインの学級・授業づくりの意義と課題 社会問題研究. 67, p.1-10
- 文部科学省 2017 中学校学習指導要領解説音楽編
- 佐藤慎二 2010 通常学級の特別支援教育セカンドステージ6つの提言と実践のアイデアー 日本文化科学者